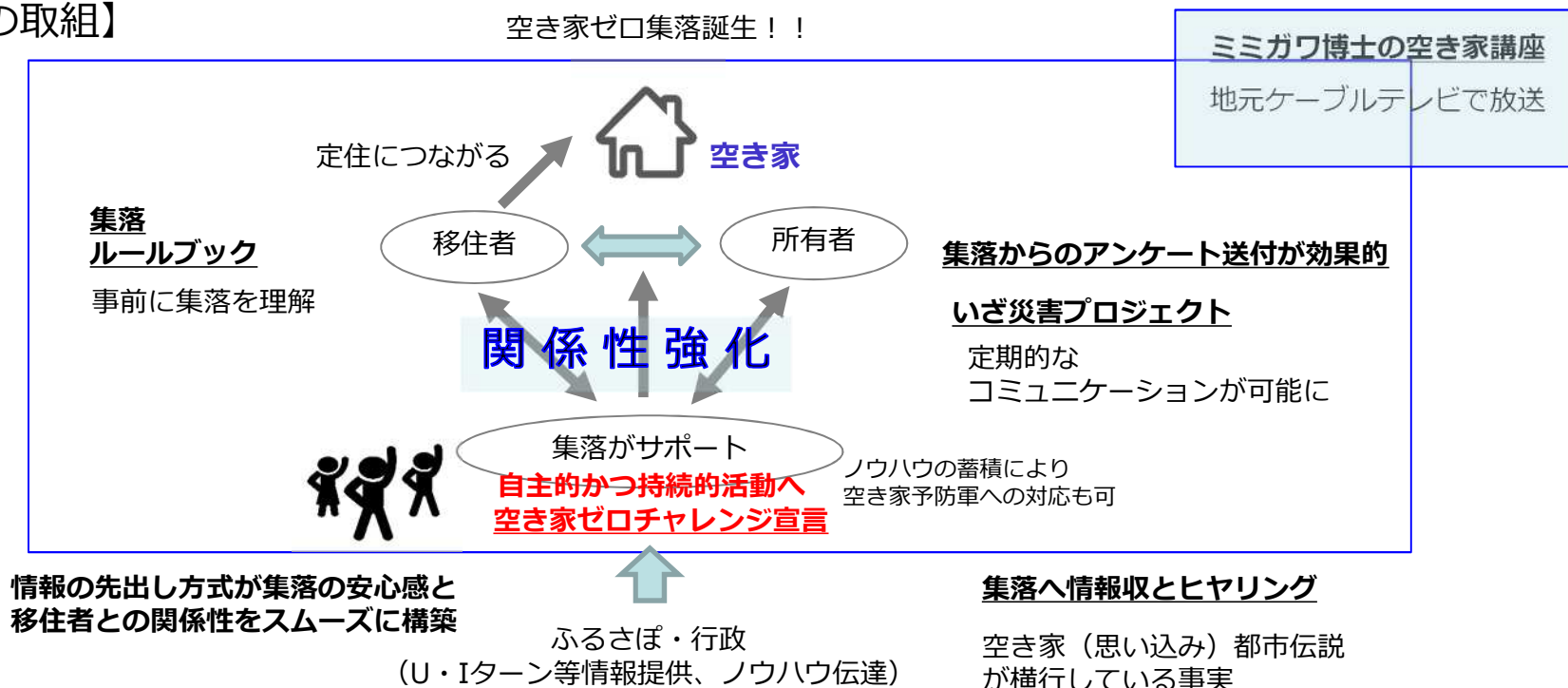


課題	所有者と移住希望者とのマッチングにおいて定住につながらない
目的	主体性を持つ集落の育成と移住者の定住へつなげること
取組内容	主体性を持つ集落の発掘とアイテム作成、所有者・移住者のアプローチケア
成果	1、空き家の掘り起こし決断は「集落アンケート方式」効果的 2、「情報の先出し方式」集落住民への安心へ移住から定住への大きな足掛かり 3、空き家ゼロ集落生まれる 4、集落ヒヤリング「空き家（思い込み）都市伝説」動画にて誤解を配信

【本事業の取組】



集落の情報情報収集と集落ヒヤリング

- 対象集落の情報収集と集落ヒヤリング
【目標数】: 2～3集落 【実施】 6集落
- ヒヤリングから空き家(思い込み)都市伝説
思い込み情報が空き家の決断に影響
- 空き家都市伝説を広くコミカルに動画で伝達
「ミミガワ博士の空き家講座」

集落と移住者の関係性を構築する2つの方式

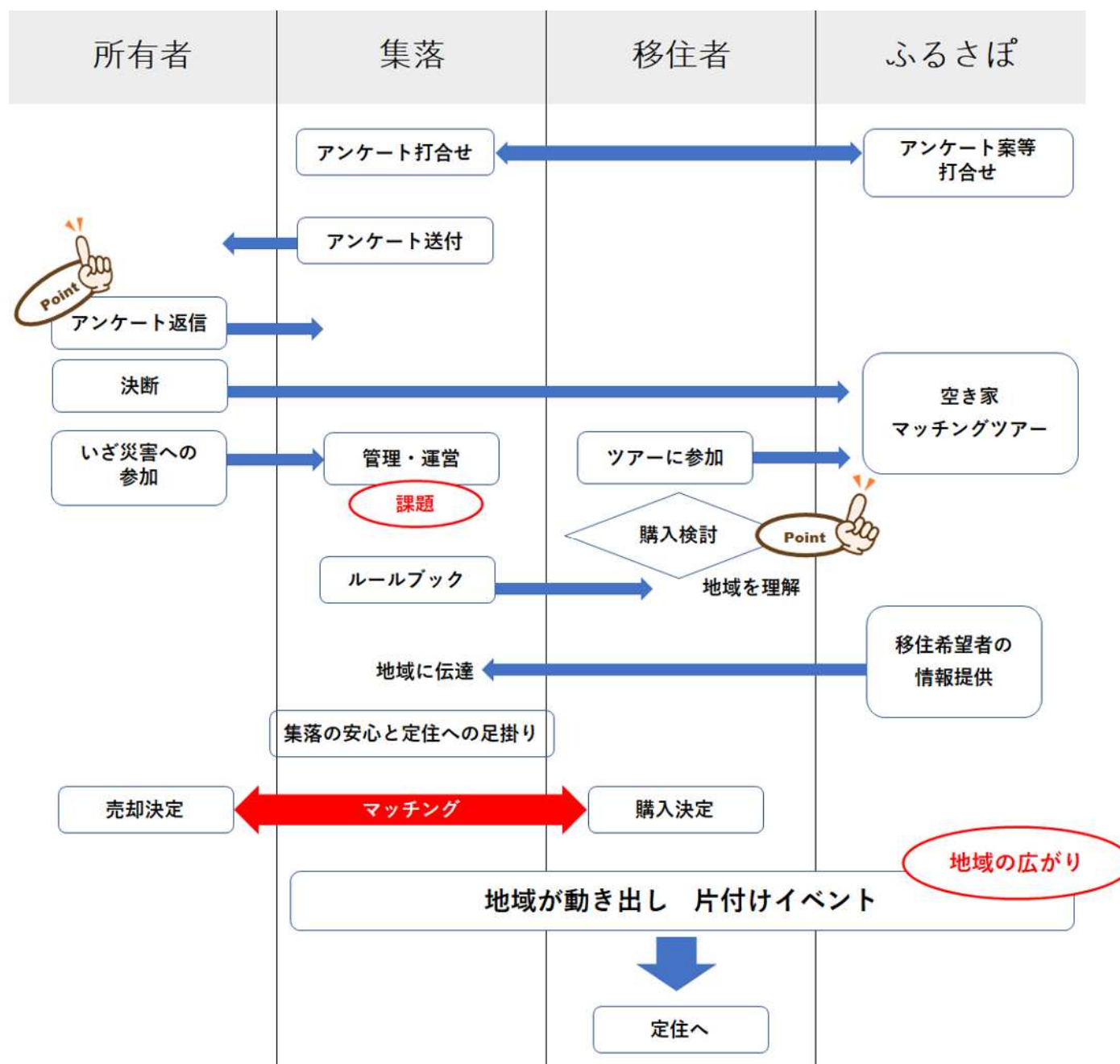
- 集落アンケート方式とは

NPOや行政から所有者にお届けするアンケートは関係性が集落よりも遠く所有者にとっては行く末を考えるきっかけとしては動きが鈍くなる。集落からのアンケートは集落に迷惑を掛けているのではという心理が働き、空き家の行く末決断に影響する効果的な方法

- 情報先出し方式とは

集落のルール等を移住希望者に移住前に情報提供
所有者の個人情報(移住者に了解を得た情報のみ)を集落の代表者に
伝達し事前にどんな人がくるのかを集落に伝達。移住前に地元との関係性を構築することが可能な方法

集落サポート フロー



事業の成果と課題 次年度への展開

<成果>

- 空き家ゼロ集落誕生
- 地域への活動の広がり
「家財道具片付けイベント」の実施

<課題>

- いざ災害プロジェクトの広報と管理運営
- 空き家都市伝説 動画の継続
- 未取組集落へのフォローアップ

補足資料

空き家ゼロの新聞記事

美浜町を心にと空き家政策に取り組むNPO法人「ふるさと福井サポートセンター」（ふるさぽ）が2011年の夏から10月間を迎えた。空き家所有者と移住希望者を結びマッチングングツアーなどを定期的に開催。6月下旬に空き家ゼロの集約ができなかった成果を受けている。さらなる空き家感と移住希望者定住に向け、本年度から町と連携し、集落主体の空き家政策事業に取り組み考えた。

（北川 龍彦）

大浜 空き家

移住者マッチング62件

ふるさぽ発足10年

長も参加
おさんのお孫は月2回
奉仕作業にもできる
加して。3年ほど前
近野で行われたマッチ
ング。移住希望者を前
へ「ほろばり」が空き家
を説明するだけでな
いとも参加し、車での生活
を促していた。ふるさぽ
の組織で、これまで集
約空き家案件が連年
後半分、移住者は定
した。

から移り住み、定住を決
断したのは43は「ふ
るさぽに入ってきた

ふるさぽ発足10年
移住者マッチング62件

町と連携 橋渡し 集落主体へ



最後、空室に新たな移住者が決つたところを代表して、大田区長は「空室対策推進大会」で決意を述べた。パー・月22日、東京町佐野。

■空室を売却する
■ホテルへ
佐野の祖父友之次(6)には、今、念ひがけ入せず集約のみ空室家を消滅することである。

空室が出始めた約10年前、区の総合課題共有した。「集約なら対応しよう」。空室を譲り購入し賃貸物件にする意向に活用。その後住民が自ら人に声をかけ、移住者募集したいという。又民衆行なは世紀以上に上る一市民同士の仲が良きお互いに運轉する下地は整っていた」と話。

この活動に止山理事長は「集約が佳にならば、空き家がでてくる対応もある。先づ住宅グループを普及及ぼすは皆実家ではあるはず」と確信した。

――その後も空室を解消に取り組みたいが一難と暮らし所有者の優先がかならない」「空室問題は誰のからだか気が使われるもの。一人ひとりの意識があふないと。」と、さういふ話は佐野の例を参考し、「早い段階に移住者を募集。空室所有者、集約引き合わせ補償役を担う」「空室させ口直しチャレンジ集約サポート事業」を始めた。

町の総元氣「アクト」を基に空室問題を解消したいという集結にアクトさん。さきは管理する空室の情報などを提供し、37歳のお倉あやも現在、若手職員の空室対策への関心が育ち、集約事業を進めている。

北山理事長は「コロナ禍でアクトやウットアクト、レバークやティンク、イデアに続いて、今後移住者が増える可能性が高い」と強調する。今のうちに積極的に集約を受け入れ態勢を整える必要がある。空室対策が地域を築くうえで近一歩になるはずと願った。

空き家講座動画



片付けイベント地元
ケーブルテレビ放送

